

# 多様な研究大学群の形成に向けて ～日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成～

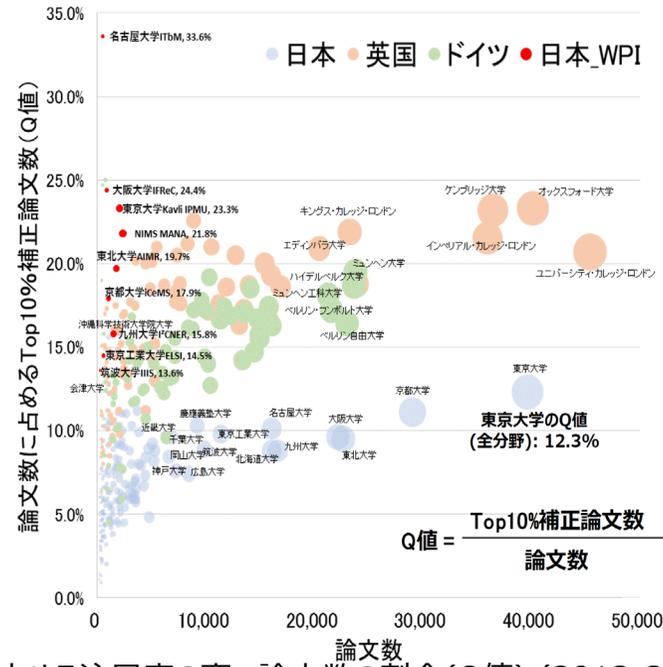
- 1. 多様な研究大学群の形成に向けて**
- 2. 国際卓越研究大学の公募・選定について**
- 3. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**
- 4. 大学研究力強化委員会の主な検討事項等について**

# 多様な研究大学群の形成に向けて

- ✓ 近年、旧帝大クラスの大学と比較して、**中堅大学の研究力が落ちていると指摘**されている。全都道府県に国立大学を有するなど、地方の国公立大学が学術・基礎研究の層の厚みや研究者の多様性を生む土壌となっていたが、法人化や少子化の進展に伴い、大学間の格差が拡大し、大学ランキングや偏差値等の序列が固定化し、諸外国と比して**一極集中型になりかけているという懸念**が強まっている。
- ✓ 欧米諸国、特に米国では、**優秀な教員獲得・確保競争**は、アイビー・リーグを中心とした私立大学だけでなく、各州にある州立大学でも積極的である。**多くの中堅大学は得意分野を持ち、その分野で一流の研究者を集める努力**を行い、世界的にも人材獲得競争が激化するだけでなく、**大学の研究競争力の原動力**ともなっている。
- ✓ 他方、我が国においては、必ずしも大学間や産業界との人材獲得競争は弱く、**研究者の流動性も乏しい**ことが課題。今後、全国の研究大学が国内のみならず、世界の大学と伍する研究力を獲得していくためにも、大学の知的蓄積や地域の実情に応じて、**研究独自色を発揮**し、テニユア制度導入も含めた人材確保に向けた取組や附置研究所の機能強化等の組織再編を促し、**大学間の健全な「切磋琢磨型」の競争環境を構築**することが重要ではないか。

## 日本 イギリス ドイツ

日本										イギリス										ドイツ												
大学名	全分野	化学	材料科学	物理学	計算科学	工学	環境・地球科学	農学	医学	基礎生命科学	大学名	全分野	化学	材料科学	物理学	計算科学	工学	環境・地球科学	農学	医学	基礎生命科学	大学名	全分野	化学	材料科学	物理学	計算科学	工学	環境・地球科学	農学	医学	基礎生命科学
東京大学	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	ミュンヘン大学	1	5	19	2	14	48	7	2	1	ミュンヘン工大	1	5	19	2	14	48	7	2	1		
京都大学	2	1	4	3	2	3	2	2	2	2	オックスフォード大	2	1	4	2	1	11	1	1	1	4	6	5	1	1	1	1	1	1	1		
東北大学	3	4	1	2	4	4	4	5	6	6	ケンブリッジ大	3	2	1	3	2	2	2	7	3	ケンブリッジ大	3	2	1	3	2	2	2	7	3		
大阪大学	4	3	3	4	3	6	19	3	4	4	ケンブリッジ大	4	3	1	3	2	1	3	3	4	ケンブリッジ大	4	3	1	3	2	1	3	3	4		
九州大学	5	6	5	7	6	5	5	4	5	5	マンチェスター大	5	4	3	7	6	4	10	5	7	マンチェスター大	5	4	3	7	6	4	10	5	7		
北海道大学	6	7	7	8	13	8	3	9	3	6	ハンブルク大	6	26	34	17	15	36	36	2	6	ハンブルク大	6	26	34	17	15	36	36	2	6		
名古屋大学	7	8	8	5	8	7	6	6	3	7	ドレスデン大	7	13	22	8	16	24	9	5	ドレスデン大	7	13	22	8	16	24	9	5				
東京工業大	8	5	6	6	5	2	9	92	30	8	ケンブリッジ大	8	6	19	13	24	16	8	9	ケンブリッジ大	8	6	19	13	24	16	8	9				
筑波大	9	11	9	9	11	13	23	23	2	9	ブリストル大	9	7	9	12	7	14	8	9	ブリストル大	9	7	9	12	7	14	8	9				
慶應義塾大	10	13	17	10	12	10	53	11	11	10	サウザン大	10	10	8	9	9	11	12	19	10	サウザン大	10	10	8	9	9	9	11	12	19		
広島大	11	10	15	11	10	11	14	14	9	11	バミンガム大	11	17	10	24	16	13	15	6	13	バミンガム大	11	17	10	24	16	13	15	6	13		
神戸大	12	15	34	14	14	12	14	12	10	12	シフールド大	12	15	5	11	12	6	14	14	14	シフールド大	12	15	5	11	12	6	14	14	14		
千葉大	13	12	28	16	19	24	12	13	13	13	リーズ大	13	9	11	16	17	9	4	17	16	リーズ大	13	9	11	16	17	9	4	17	16		
岡山大学	14	19	29	18	33	28	13	11	12	14	グラスゴー大	14	21	25	13	25	25	26	11	10	グラスゴー大	14	21	25	13	25	25	26	11	10		
早稲田大	15	14	13	13	7	9	21	83	36	15	ニューカッスル大	15	23	21	35	24	15	20	12	11	ニューカッスル大	15	23	21	35	24	15	20	12	11		
金沢大	16	18	38	27	39	29	11	17	21	16	リバプール大	16	20	16	22	19	17	18	18	12	リバプール大	16	20	16	22	19	17	18	18	12		
日本大学	17	30	45	28	18	31	36	15	14	17	カーディフ大	17	16	27	30	21	18	19	13	15	カーディフ大	17	16	27	30	21	18	19	13	15		
東京理科大学	18	61	41	115	105	103	147	6	24	18	ウォリック大	18	6	12	10	4	22	51	25	23	ウォリック大	18	6	12	10	4	22	51	25	23		
熊本大	20	29	21	43	32	47	23	19	20	19	マンチェスター大	19	27	14	23	18	27	41	15	18	マンチェスター大	19	27	14	23	18	27	41	15	18		
新潟大	21	42	54	24	17	27	26	30	25	20	エクセター大	20	42	26	20	41	29	8	24	21	エクセター大	20	42	26	20	41	29	8	24	21		
長崎大	22	37	65	93	99	59	33	21	16	21	リーズ大	21	22	23	21	30	24	27	26	25	リーズ大	21	22	23	21	30	24	27	26	25		
信州大	23	21	14	29	26	51	30	36	31	22	ドララム大	22	18	29	6	22	31	12	44	37	ドララム大	22	18	29	6	22	31	12	44	37		
徳島大	24	36	40	47	57	34	66	29	23	23	アディンバ大	23	32	42	40	36	35	13	23	20	アディンバ大	23	32	42	40	36	35	13	23	20		
近畿大	25	22	72	69	62	69	47	31	22	24	ヨーク大	24	19	41	19	16	41	22	27	27	ヨーク大	24	19	41	19	16	41	22	27	27		
東京農工大	26	16	31	31	36	20	17	98	18	25	パース大	25	11	15	28	20	19	40	39	32	パース大	25	11	15	28	20	19	40	39	32		
大阪市立大	27	33	76	26	16	82	40	26	48	26	ストラスクライド大	26	15	17	15	32	28	45	53	38	ストラスクライド大	26	15	17	15	32	28	45	53	38		
大阪府立大	28	17	12	15	24	19	41	100	34	27	レスター大	27	35	39	25	37	52	23	22	29	レスター大	27	35	39	25	37	52	23	22	29		
順天堂大	29	152	169	126	148	157	136	19	27	28	セントパウル大	28	12	28	14	29	70	21	61	68	セントパウル大	28	12	28	14	29	70	21	61	68		
北里大	30	60	106	95	112	102	82	27	15	29	ベルリン工大	29	82	96	90	80	97	60	19	24	ベルリン工大	29	82	96	90	80	97	60	19	24		
岐阜大	31	32	46	66	48	56	28	50	17	30	ラフバラー大	30	24	13	32	31	16	38	33	47	ラフバラー大	30	24	13	32	31	16	38	33	47		
群馬大	32	35	50	34	43	35	67	28	39	31	ダンディー大	31	46	47	48	52	51	48	20	17	ダンディー大	31	46	47	48	52	51	48	20	17		
鹿児島大	33	69	39	70	54	79	24	34	19	32	サリー大	32	30	20	18	14	23	37	35	35	サリー大	32	30	20	18	14	23	37	35	35		
富山大	34	27	37	52	70	37	35	60	26	33	レディング大	33	28	44	41	38	34	54	26	33	レディング大	33	28	44	41	38	34	54	26	33		
香川大	35	46	33	41	47	71	66	62	28	34	マンチェスター大	34	29	55	52	47	17	31	31	31	マンチェスター大	34	29	55	52	47	17	31	31	31		
横浜国立大	36	63	127	101	117	112	70	18	33	35	スウォンジー大	35	36	46	31	31	31	31	31	31	スウォンジー大	35	36	46	31	31	31	31	31	31		
山口大	37	44	55	60	28	36	29	53	29	36	サセックス大	36	33	74	26	46	53	42	42	40	サセックス大	36	33	74	26	46	53	42	42	40		
山形大	38	23	18	32	45	49	44	72	59	37	ハルロウ大	37	25	30	29	27	20	30	92	62	ハルロウ大	37	25	30	29	27	20	30	92	62		
静岡大	39	26	20	19	35	18	18	120	54	38	ランカスター大	38	38	33	27	11	30	32	52	51	ランカスター大	38	38	33	27	11	30	32	52	51		
東海大	40	64	22	53	41	33	38	46	50	39	ブリスツル大	39	56	56	57	51	37	18	32	34	ブリスツル大	39	56	56	57	51	37	18	32	34		
											ケンブリッジ大	40	34	24	53	58	12	29	97	56	ケンブリッジ大	40	34	24	53	58	12	29	97	56		



# 日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成

(研究大学に対する組織支援策※の全体像)

※ 博士人材や研究者個人・チームに対する支援策は別途あり

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織（領域）間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群（システム）を構築することが必要

個々の大学が持つ強み（ピーク）を最大化



大学（領域）を超えた連携を拡大・促進



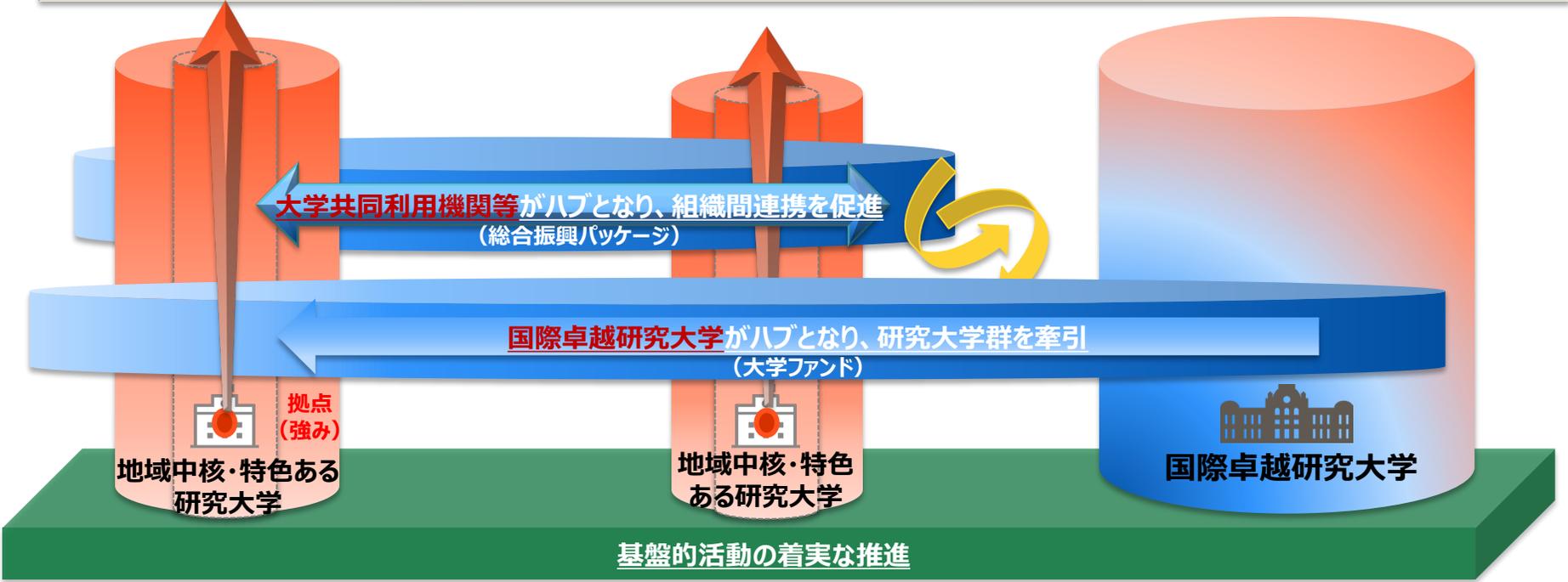
国内外での人材の流動性向上

- ✓ 大学の特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援（WPI拠点、共創の場拠点、国際的な学術研究を牽引する共同利用・共同研究拠点）
- ✓ 拠点が持つ強みをさらに伸ばすため、近接分野の拡充や、全学的な国際水準の研究環境（専門人材配置、機器共用体制等）の構築を支援

- ✓ 大学共同利用機関等が持つ、多様な分野の全国的な研究者ネットワークのハブ機能を拡張させ、全く新しい学際研究領域の開拓に資する複数大学の異分野の研究機関間の連携を支援

～総合振興パッケージ～  
～大学ファンド～

- ✓ トップクラスの研究者の糾合により新たな研究領域を創出し、卓越かつ多様な学問分野におけるハブとしての国際卓越研究大学が共同研究などの連携を促進し、研究大学群全体を牽引



1. 多様な研究大学群の形成に向けて
- 2. 国際卓越研究大学の公募・選定について**
3. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定
4. 大学研究力強化委員会の主な検討事項等について

# 第205回国会における岸田内閣総理大臣所信表明演説



令和3年10月8日

**新しい資本主義**を実現していく車の両輪は、成長戦略と分配戦略です。

まず、成長戦略の第一の柱は、**科学技術立国の実現**です。

学部や修士・博士課程の再編、拡充など**科学技術分野の人材育成を促進**します。世界最高水準の研究大学を形成するため、十兆円規模の**大学ファンドを年度内に設置**します。デジタル、グリーン、人工知能、量子、バイオ、宇宙など**先端科学技術の研究開発に大胆な投資**を行います。民間企業が行う未来への投資を全力で応援する税制を実現していきます。

また、イノベーションの担い手である**スタートアップの徹底支援**を通じて、新たなビジネス、産業の創出を進めます。

そして、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、温暖化対策を成長につなげる、グリーンエネルギー戦略を策定し、強力に推進いたします。

第二の柱は、地方を活性化し、世界とつながる「**デジタル田園都市国家構想**」です。（中略）

第三の柱は、**経済安全保障**です。（中略）

第四の柱は、**人生百年時代**の不安解消です。（以下略）

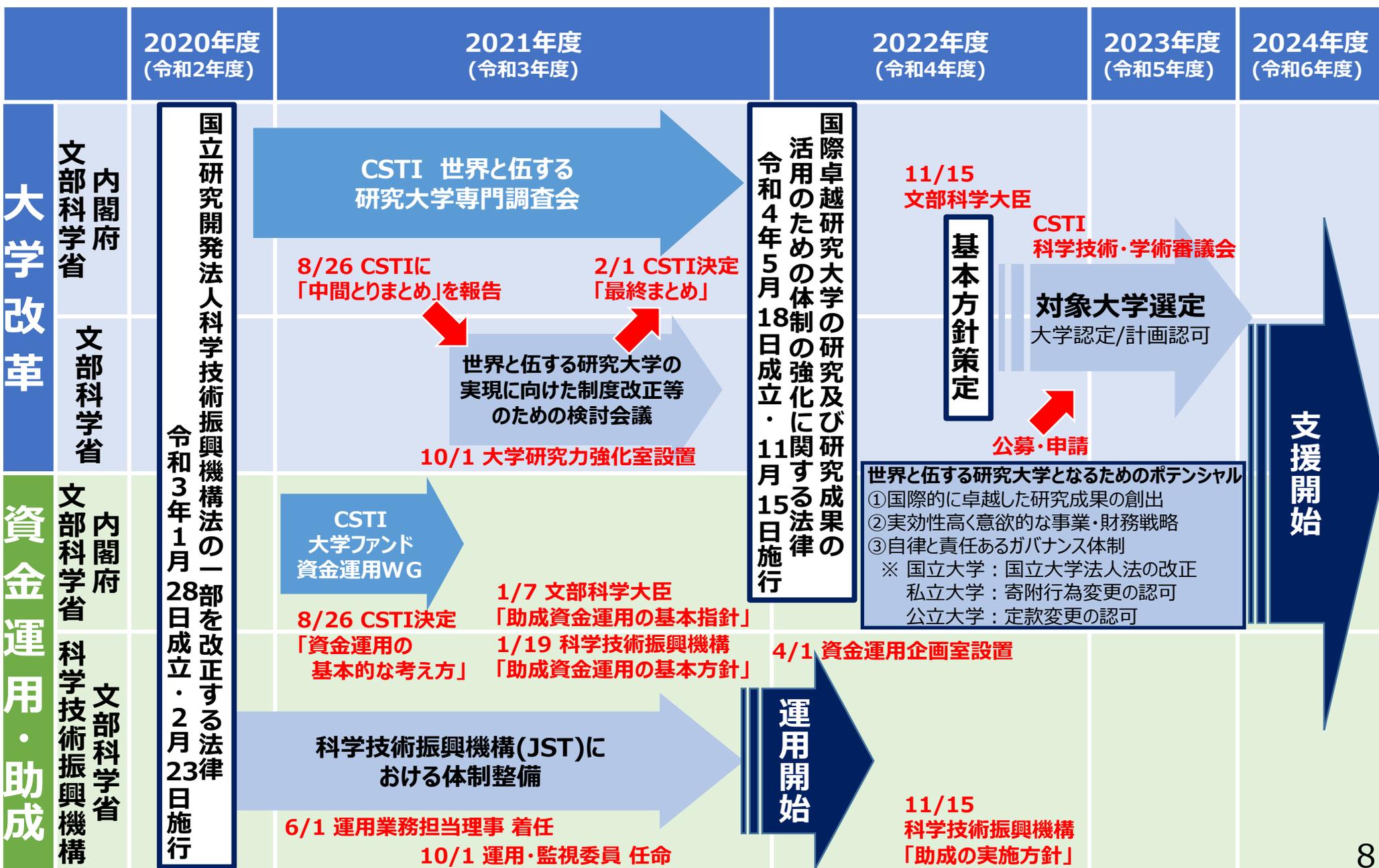
# 国際卓越研究大学の 将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、  
日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



# 大学ファンドに関するスケジュール



# 国際卓越研究大学の公募・選定について

## 1. 公募・選定のポイント

### 判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への意思(ビジョン)と**コミットメントの提示**に基づき実施。

### 大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。また、**大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う**。

### 要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. **国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力**

2. **実効性高く、意欲的な事業・財務戦略**

3. **自律と責任のあるガバナンス体制**

### 審査体制

**総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築**。アカデミアの特性も踏まえつつ、**国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえらるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築**。

### 段階的審査

審査においては、**研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施**（書面や面接による審査だけでなく、**現地視察、ハンズオンによる体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施**）。



## 2. 公募・選定のスケジュール

- ◆ 令和4年12月 公募開始
- ◆ 令和5年3月末 公募締切（意向表明書／体制強化計画(第一次案)提出）
- ◆ 令和5年度～ 段階的審査（春～秋頃にかけて段階的に絞り込み。大学側との丁寧な対話。）  
国際卓越研究大学 認定 / 体制強化計画 認可  
助成開始（令和6年度予定） ※第2期公募開始（大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に行う）



# (参考) 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する具体的な基準

## ① 国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力

目指すべき姿の実現に向けて、**世界の学術研究ネットワークを牽引し、新たな研究領域やイノベーションを常に創出し続けるマネジメント・システムを構築するため、既存の制度に縛られず、学内外の叡智を結集して取組を進めていく計画**であること。特に、次に掲げるような**研究上のポテンシャルを向上し続ける方策**が示されていること。

- ✓ 世界トップクラスの研究者や国内外の優秀な博士課程学生の獲得や活躍の推進
- ✓ ジェンダーギャップの是正やアカデミック・インブリーディング（大学人事において自校出身者を優先的に教員として採用する慣行）の抑制を含むダイバーシティの担保
- ✓ 先進性の高い、分野を横断したカリキュラム・デザインに基づく博士課程プログラムの構築
- ✓ 世界トップクラスの研究者・学生が糾合する新しい研究領域の創出（World-class Critical Mass の形成）
- ✓ 新しい価値の創造を目指した分野横断的な対話や結合を可能とする多様な学問分野の展開
- ✓ 若手研究者が独立し、研究室の縦割りを越えて触発し合い、活躍できる場の提供やモチベーションを喚起する業績評価
- ✓ URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の専門職人材の積極登用、マネジメント業務などのエフォートの戦略的配分などによる、卓越した研究成果の創出に必要な研究時間の確保のための環境整備
- ✓ グローバルに活動を展開する大学を支える事務職員の採用や意識・資質の向上
- ✓ 世界最高水準の研究大学にふさわしい研究インテグリティの確保（大学の自律的な安全保障管理計画の策定等）
- ✓ AI技術、バイオテクノロジーや量子技術などの戦略重点分野や新興・融合分野への取組、新たな萌芽的挑戦

# 国際卓越研究大学の公募・選定について

## 3. 国際卓越研究大学の申請受付状況（大学名）

1	早稲田大学	※申請受付順
2	東京科学大学（仮称） ※国立大学法人東京医科歯科大学と国立大学法人東京工業大学による共同申請	
3	名古屋大学	
4	京都大学	
5	東京大学	
6	東京理科大学	
7	筑波大学	
8	九州大学	
9	東北大学	
10	大阪大学	

合計 10件（うち1件は、2法人による共同申請）

# 国際卓越研究大学の認定・研究等体制強化計画の認可の審査の流れ（イメージ）

基本方針の策定  
R4.11

★公募開始  
R4.12

公募期間  
(数か月程度)



★応募〆切  
R4年度末

面接審査、現地視察、ハンズオンによる体制強化計画の磨き上げなど、  
多様な手段により審査を実施



大学認定・計画認可に関する審査  
(段階的審査)

R5年度秋頃以降

- ・ 認定・認可の審査プロセスを一体的に実施
- ・ 研究現場の視察や大学側との丁寧な対話を通じて審査を実施

合議体の設置等の  
大学のガバナンス変更準備

★大学認定 & 計画認可

助成開始  
R6年度以降



- 【認定・認可申請】
- ・ 国際卓越研究大学に係る認定申請書
  - ・ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画に係る認可申請書
  - ・ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画 概要
  - ・ 第I期実行計画 等

- 【書面審査】
- ・ 国際卓越研究大学に係る認定意向表明書
  - ・ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画 第一次案 概要・動画
  - ・ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画 第一次案
  - ・ その他補足説明資料 等

## 大学認定基準・計画認可要件

大学認定基準 [法第4条第3項関係]  
※①～⑦のいずれも満たす必要

- ① 国際的に卓越した研究の実績を有していること
- ② 経済社会に変化をもたらす研究成果の活用の実績を有していること
- ③ 教員組織及び研究環境等の研究の体制が整備されていること
- ④ 民間事業者との連携協力体制等の研究成果の活用の体制が整備されていること
- ⑤ 効果的な資源の確保及び配分等の行える運営体制が整備されていること
- ⑥ 研究に関する業務と管理運営に関する業務の適切な役割分担等の業務執行体制が整備されていること
- ⑦ 国際的に卓越した研究等を持続的に発展させるために必要な財政基盤を有していること

計画認可要件 [法第5条第2項関係]  
※①～③のいずれも満たす必要

- ① 基本方針に適合するものであること
- ② 円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること
- ③ 当該大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に資するものであること

# 国際卓越研究大学の認定・研究等体制強化計画の認可の審査体制

## 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

有識者議員のうち、数名が参加

## 文部科学省 科学技術・学術審議会

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

大学研究力強化委員会の委員のうち、数名が参加

## 国際卓越研究大学 アドバイザリーボード



## 審査事務局（文部科学省）

①国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力

②実効性高く、意欲的な事業・財務戦略

③自律と責任のあるガバナンス体制

国内外のレビュアー



内閣府

連携

情報提供

NISTEP

（参考）国際卓越研究大学法に基づく基本方針（抜粋）

### 3 総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会への意見聴取

科学技術・イノベーション政策における国際卓越研究大学制度の重要性に鑑み、文部科学大臣は、国際卓越研究大学の認定に当たり、法第4条第4項の規定に基づき、あらかじめ、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴かなければならないこととされている。その際、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築するとともに、アカデミアの特性も踏まえつつ、国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえらるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築することとする。

# アドバイザーボードの構成員について



富士通株式会社 執行役員 EVP CSO

Corporate Executive Officer, EVP, Chief Sustainability Officer,  
Fujitsu Ltd.

**梶原 ゆみ子/Kajiwara Yumiko**



東京大学大学院理学系研究科・化学専攻・教授

東京大学先端科学技術センター教授

日本学術会議会員、ミラバイオロジクス株式会社取締役

Professor, The Department of Chemistry, Graduate School of Science,  
The University of Tokyo

Professor, Research Center for Advanced Science and Technology,  
The University of Tokyo

Council Member, Science Council of Japan,

Director, MiraBiologics Inc.

**菅 裕明/Suga Hiroaki**



フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO

CEO, Future Co.

**金丸 恭文/Kanemaru Yasufumi**



シンガポール保健省(MOH) チーフ・ヘルス・サイエンティスト

MOHT エグゼクティブ・ディレクター

前シンガポール国立大学 学長

Chief Health Scientist, Ministry of Health, Singapore

Executive Director, MOH Office for Healthcare Transformation

Former President of the National University of Singapore

**タン・チョー・チュアン/Tan Chorh Chuan**



大学共同利用機関 自然科学研究機構 機構長

President, National Institutes of Natural Sciences

**川合 真紀/Kawai Maki**



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

Chief Executive Member (CMC),

Council for Science, Technology and Innovation

**上山 隆大/Ueyama Takahiro**



カリフォルニア工科大学 フレッド・カブリ冠教授、ウォルター・バーク理論物理学研究所 所長  
東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長、アспен物理学センター 理事長

Fred Kavli Professor of Theoretical Physics and Mathematics, Director  
of the Walter Burke Institute for Theoretical Physics, California  
Institute of Technology

Director, Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the  
Universe, The University of Tokyo

Chair of the Board of Trustees, Aspen Center for Physics

**大栗 博司/Ooguri Hiroshi**



ウィルトン・ストラテジー社CEO

元UCバークレー 副学長、元シンガポール国立大学 副学長

CEO, Wilton Strategy Inc.

Former Vice President of the University of California, Berkeley

Former Vice President of the National University of Singapore

**ジョン・ウィルトン/John Wilton**



日本電信電話株式会社(NTT) 相談役

(一社)日本経済団体連合会副会長・デジタルエコノミー推進委員会委員長

Executive Advisor, Nippon Telegraph and Telephone Corporation  
(NTT)

Vice Chair and Chair of the Committee on Digital Economy,  
the Japan Business Federation (Keidanren)

**篠原 弘道/Shinohara Hiromichi**



福島国際研究教育機構 理事長

金沢大学 前学長

President, Fukushima Institute for Research, Education and Innovation

Former President of the Kanazawa University

**山崎 光悦/Yamazaki Koetsu**

# (参考) 大学ファンドに関するシンポジウム①

名 称：大学ファンドを通じた世界最高水準の研究大学の実現に向けて  
～国際卓越研究大学構想への期待～

【主 催】国立研究開発法人科学技術振興機構

【共 催】内閣府、文部科学省

趣 旨：国際卓越研究大学構想の意義や背景等に関する講演に加え、  
パネルディスカッションを実施。

公募開始を前に、大学関係者だけでなく、社会に広く周知し、対話  
するシンポジウムを開催することで幅広い産学官の関係者の理解と  
関連施策との連携を促進することを目的とする。

日 時：令和4年11月29日(火)14時～16時（実開催・オンライン配信）

【資 料】<https://www.jst.go.jp/all/event/2022/20221026.html>

【動 画】[https://www.youtube.com/watch?v=Ke\\_k-dGFT90](https://www.youtube.com/watch?v=Ke_k-dGFT90)



## <当日のスケジュール>

14:00 開 会

講 演

①上山 内閣府CSTI常勤議員

②木村 文部科学省大臣官房審議官

パネルディスカッション

16:00 閉 会

## <パネルディスカッション参加者>



上山 隆大  
内閣府 総合科学技術・  
イノベーション会議 常勤議員



金丸 恭文  
フューチャー株式会社  
代表取締役会長兼社長  
グループCEO



川合 眞紀  
大学共同利用機関法人  
自然科学研究機構  
機構長



山崎 光悦  
福島国際研究教育機構  
理事長  
金沢大学 前学長

# (参考) 大学ファンドに関するシンポジウム②

政府は世界トップの研究水準を目指す大学を支援するため、10兆円規模の大学ファンド（基金）を創設した。意見交換を通じこの取り組みへの理解を深めようと、シンポジウム「大学ファンドを通じた世界最高水準の研究大学の実現に向けて」が昨年11月29日、科学技術振興機構（JST）主催、内閣府と文部科学省の共催で開かれた。都内の会場とオンラインを合わせ1000人ほどが参加し、関心の高さをうかがわせた。

## 振興パッケージで「トップ以外の大学も支援」

ファンドはJSTが昨年3月に運用を開始した。運用益により、世界トップの研究水準実現の潜在力を持つ数校の「国際卓越研究大学」に年最大計3000億円を助成。全国の博士課程の学生を支援し、日本の研究力強化を図る。2024年度の助成開始に向け、卓越大学の公募が今年度末までの予定で始まっている。

「優れた研究を現在している大学を選ぶというのではなく、新しいカテゴリーに入っていこうとする大学を支援したい」「選ばれるトップ数校以外は見捨てられるのではとの批判もあるが、10兆円ファンド以外にもさまざまな支援が走っている」

こうした発言でシンポジウムの口火を切ったのは、ファンド創設の議論に深くかかわってきた内閣府総合科学技術・イノベーション会議常勤議員の上山隆大氏。創設が明らかになって以降、学術、教育界などから期待と共に、さまざまな疑問の声も起こっている。これらへの回答を交える形でファンドの狙いを語った。「このファンドは年3000億円（の運用益）でトップ大学を支援する形ではあるが、『地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ』と連動した施策だ。文科省と内閣府はトップ層以外への支援も真剣に議論してきた」と説明した。

2004年の国立大学法人化以降、運営費交付金の減少は年約1600億円に及んでいる。こうした中、地域の中核大学や特定分野に強い大学を強化しようと、政府は振興パッケージを打ち出した。今年度第2次補正予算に盛り込まれたほか、来年度概算要求でコア予算658億円、他の関連予算と合わせ1700億円規模となっている。上山氏は「大学ファンドが大きな注目を浴びているが、振興パッケージとほぼ一体だ」と強調し理解を求めた。成長分野をけん引する大学や高等専門学校の機能強化に向けた基金も紹介した。

上山氏の講演のキーワードとなったのが「新しいカテゴリーの大学」という言葉だ。従来とは全く異なるカテゴリーで大学を考える大学を支援するのが、文科省と内閣府の共通認識だという。その中身は何か。

上山氏は日本の大学の現状や課題を、次のように概説した。

- (1) トップの大学でも海外トップ層と成果創出などの格差が極めて大きく、新たな支援が必要。
- (2) 研究者の支援が貧弱。
- (3) 海外トップ層は大学院中心の組織体で、学部縦割りにされている国内の大学院は張り合えない。
- (4) 海外トップ層では財務のプロがアドミニストレーション（経営管理）にあたっている。
- (5) 真の大学の自治は執行部が自ら考え、財務構造を分析し自力で勝ち取る必要がある。
- (6) 国際性を高めるため、海外の大学と競争して有能な研究者やスタッフを招く必要がある。

新しいカテゴリーの大学はこれらを踏まえたもので、「これまでの運営費交付金や競争的資金の枠組みではできず、このファンドでしかあり得ない」と、創設に踏み切ったという。「現在、卓越していると思われる大学でも、これに参加しようと思わなければ（ファンドとしては）共に歩む必要はない」と念を押した。



世界トップ水準の大学をどう実現するか。激論が繰り広げられた = 昨年11月29日、東京都千代田区の丸ビルホール

# (参考) 大学ファンドに関するシンポジウム③

## 「政府の成長戦略の重要政策」と強調

続いて文科省大臣官房審議官の木村直人氏がファンド創設の経緯や仕組み、振興パッケージを解説した。岸田文雄首相は2021年10月の臨時国会の所信表明演説で、成長戦略の第一の柱が科学技術立国の実現だとした上で、ファンド創設を言明している。このことに触れ「政府の成長戦略の中の重要政策だ」と強調した。

木村氏は日本のトップ論文数順位の低下、博士号取得者数の伸び悩みといった厳しい現状を指摘。「相対的な研究力低下の一因として、諸外国の大学のファンドの充実がある」とした。米ハーバード大学、スタンフォード大学などが運用益を活用し、研究基盤や研究者支援を充実させているという。今回のファンドはこれらをモデルにしたと説明。データを示しながら必要性を説き「わが国全体の研究力強化に努めたい」とした。

続くパネルディスカッションの冒頭、進行役の上山氏から「全くのアドリブで」と突然、指名され登壇したのは内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長の松尾泰樹氏。「日本経済を大きくし雇用を増やし、賃金を上げなければ。そのためには高度な人材をしっかりと育て、外国人をきちんと受け入れ、スタートアップ（新興企業）を生んでいく必要がある。新しい産業構造を生むプラットフォームが卓越大学であり、スタートアップの支援だ。ここが本当に正念場。地域の中核大学もしっかり支援する。岸田政権は『誰一人取り残さない』としており、頑張っている大学は絶対取り残さないとの思いだ」と語った。

## 『時間を買った』ファンド契機に変革を」

パネルではファンドへの思いや大学を取り巻く状況の認識、改革への思いが活発に語られた。

「当初はこのファンドに懐疑的だった」と明かしたのは、大学や教育改革などに関する政府委員会の経験が豊富な、フューチャー会長兼社長の金丸恭文氏。金丸氏は「税金で10兆円のファンドを作り、運用益を大学に提供するのは『上げ底』だと思った。というのも、世界のキャッシュリッチなトップの大学は、基本的にはその若い研究者や卒業生の仲間がリスクを取って起業し、そこに大学ファンドみたいなものが投資してコラボレーションをし、結果的にキャッシュリッチになっている」と解説した。海外のこうした大学は、あくまで内発的なエネルギーで発展してきたというのだ。

金丸氏は続けて、現在の認識を語った。「今から大学がベンチャーを輩出してリターンで基金を積み上げていくには、相当に時間がかかる。だから私は、今回のファンドは『時間を買った』と思っている。これがきっかけになり、大学の中で変革が起きることが重要。今までの延長線上の微修正でファンドが使われてはいけない。その大学がトップレベルの研究者、企業家をどれだけ輩出するかが大切だ」

自然科学研究機構長の川合眞紀氏は「大学に期待値があるわりに、国はこれまでシケたお金しか出してこなかった。しかし今回、かなり思い切った施策を国が考えた」とファンドを評価した。日本の大学に欠けるものとして、フレキシビリティ（柔軟性）を挙げた。例えば「大学には、優れた人材を輩出する役割があり、学生の視点で考えると、自ら学び、生き方を開拓する力を持つことだ。しかしこの国の教育では一本道を進むことがデフォルトになり、途中で迷いが生じた学生は大変で、フレキシビリティがない」と提起した。

川合氏は運営費交付金の制約にも触れた。「例えば、大学は入学定員が管理されていて、サボって駄目な学生がいなくなっても運営費交付金が減ってしまう。大学ファンドでは、今までの適正でない縛りを外す提案をしてほしいといわれている。全部外すと何ができるか、期待している」



(左) 木村氏 (右) 松尾氏



(左) 金丸氏 (右) 川合氏

# (参考) 大学ファンドに関するシンポジウム④

## 「私の大学はこうなる」思いの一致が肝心

4月に設立される福島国際研究教育機構の理事長に就任する山崎光悦氏は、自身が学長を務めた金沢大学が2017年度に文科省「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI)に採択され、研究所の新設などに取り組んだ経験を紹介した。「世界トップレベルの研究をしっかりとやっていくという、研究者の大切なモチベーションになった」と効果を強調した。

山崎氏は卓越大学の課題として「現在の大学組織を置いたまま、ガバナンスをどう変えていくのかは一番、大事なポイント。“特区”を作るのか、あるいは今いる人たちも含め全体で変わろうとするのか。私の大学はこうなるぞと皆の思いが一致し、どのくらいのスピード感でやれるかが一番肝心だ」と投げかけた。

このほか国内の大学の連携、入学試験の評価のあり方、基礎研究の重要性、博士号取得者の活用、海外出身研究者の定着など、多岐にわたり意見交換が行われた。

閉会挨拶に立ったJST理事長の橋本和仁氏は「実は私も計画の最初から関わっていた」とし、3点をアピールした。

- (1) 研究力とは何か。例えばトップ論文数を増やすなら、一番分かりやすいのは科研費(科学研究費助成事業)に(運用益を)全部、注ぎ込むことだ。毎年3000億円が入れば科研費は倍になり、確実に論文数は上がると思う。しかし世界の変革の中で、論文数を上げるだけではダメだろう。いろいろな議論の中で大学ファンドを作った。
- (2) 卓越大学に指定された大学が自分だけではなく、他大学と連携して日本全体の研究力を上げることを期待する。
- (3) 指定大学に対するリクワイアメント(要求)は極めて厳しいものになる。

## 効果波及し、社会の活力高めていくが注目

何かにつけて元気がないといわれる、昨今の日本社会。大学の研究力低下も、指摘されて久しい。シンポジウムでは、ファンド創設の当事者が不安や疑問の声にも向き合い、丁寧に説明する姿勢が感じられた。このファンドは一部の大学やその研究者に利するだけでなく、効果を広く波及させる狙いがあることが伝わった。

その志の通り、大学が元気になることで日本が学術、産業の競争力を高め、人々の知的好奇心を紡ぎ、社会の活力を高めていけるのか。また、こうした未来がかかった巨額のコストがいかに安全に運用され、長期に利益を生んでいけるのか。

社会が関心を持ち、見つめていくことが大切だ。

(出典)

サイエンスポータル「新たなカテゴリー」で世界トップに挑む 大学ファンドシンポで激論 2023.01.19  
[https://scienceportal.jst.go.jp/explore/reports/20230119\\_e01/index.html](https://scienceportal.jst.go.jp/explore/reports/20230119_e01/index.html)

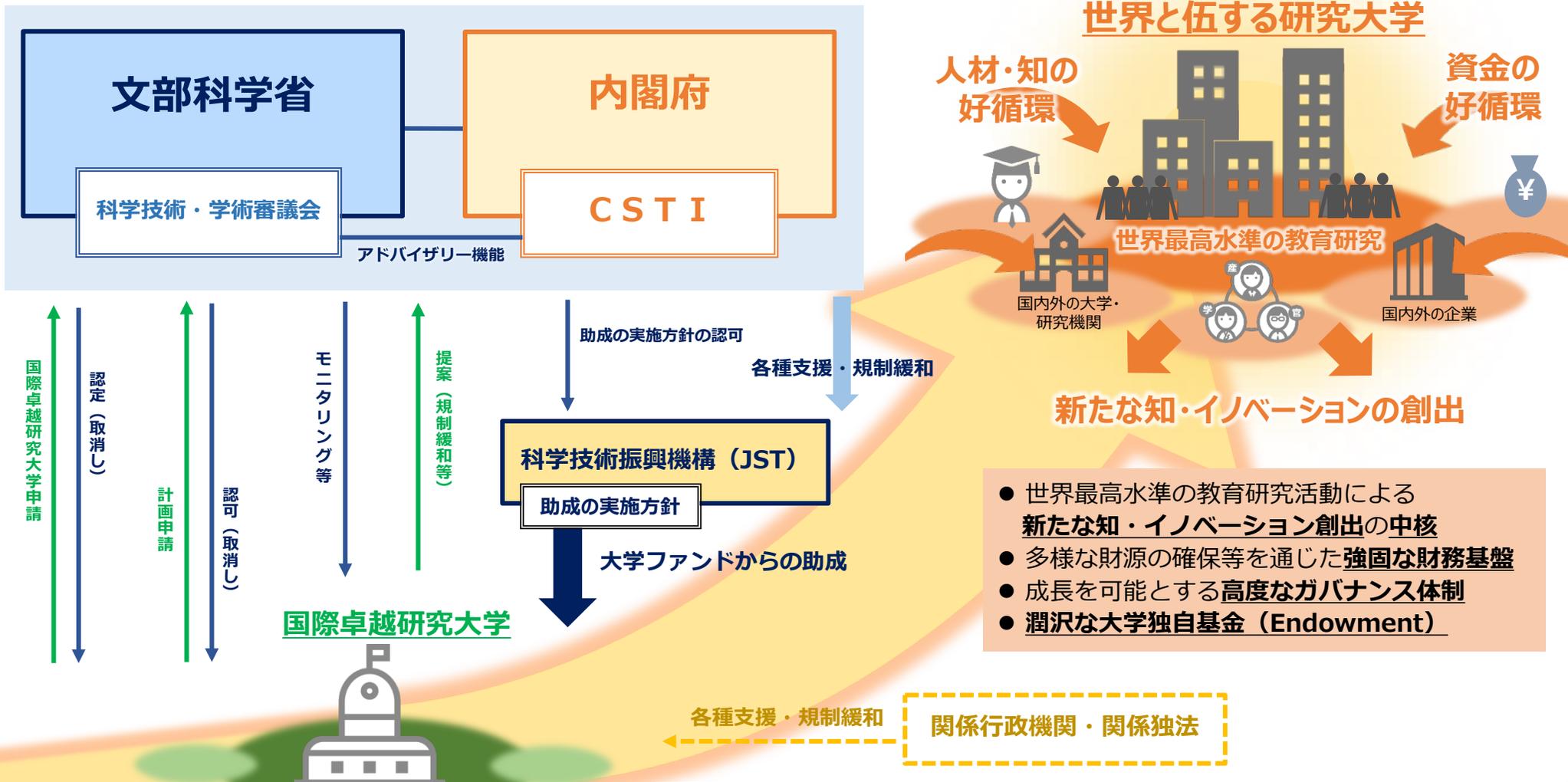


(左) 山崎氏 (右) 橋本氏



大学関係者らが多数詰めかけ、関心の高さがうかがえた

# 国際卓越研究大学制度の全体像（イメージ）



## 世界と伍する研究大学

人材・知の  
好循環

資金の  
好循環

世界最高水準の教育研究

国内外の大学・  
研究機関

国内外の企業

新たな知・イノベーションの創出

- 世界最高水準の教育研究活動による **新たな知・イノベーション創出の中核**
- 多様な財源の確保等を通じた **強固な財務基盤**
- 成長を可能とする **高度なガバナンス体制**
- **潤沢な大学独自基金（Endowment）**

各種支援・規制緩和

関係行政機関・関係独法

～世界と伍する研究大学となるためのポテンシャル～

- 国際的に卓越した **研究成果の創出（研究力）**
- 実効性高く意欲的な **事業・財務戦略（3%成長）**
- 自律と責任ある **ガバナンス体制（合議体）**

## ～基本方針～

国際卓越研究大学制度の意義及び目標、認定等に関する基本的な事項  
JSTの助成の実施方針に関する基本的な事項  
科学技術・イノベーション政策との連携に関する基本的な事項

など

※制度の趣旨を踏まえれば、認定される大学は無制限に拡大するものではなく、数校程度に限定。

# (参考) 米国における大学独自基金と大学ランキングとの関係

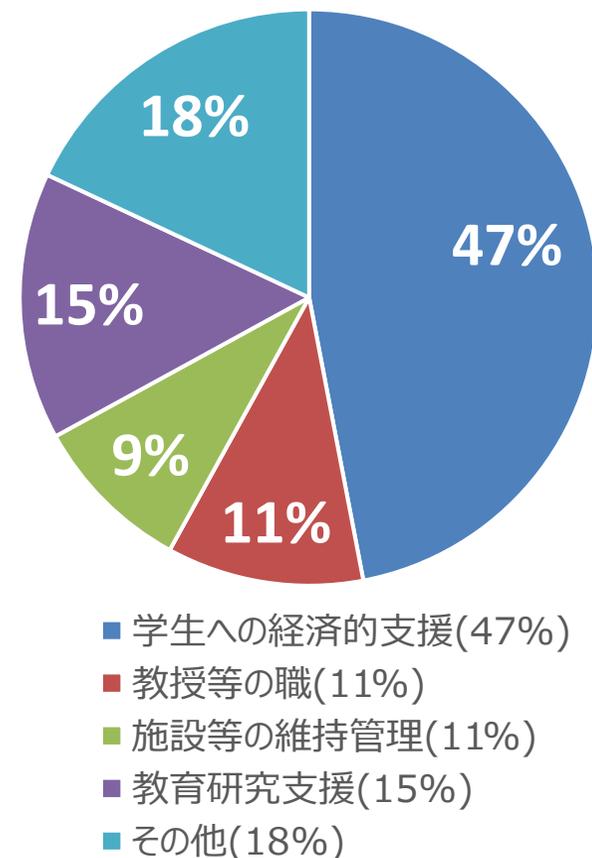
- 大学の財政力と教育研究機関の質は直接的に関係しないものの、大学独自基金(Endowment)トップ10の大学は、U.S. News\*の大学ランキングでも上位を占めており、強い相関を示している。
  - 大学独自基金の規模が大きい大学は、その財政的余力を豊かな教育研究環境づくりに活用(全米平均では、大学独自基金の運用益から約4.5%を支出)。大学独自基金は、事業運営の独立性や財政面の安定性の向上に貢献。
- ※アメリカのU.S. News誌は、毎年、大学ランキングを発表。米国国内で用いられる大学ランキングとして最も一般的と言われている。

## ① 大学独自基金トップ10と大学ランキング

大学名	大学独自基金	U.S. News 大学ランキング
ハーバード大学	419億ドル	同率 2位
イエール大学	311億ドル	5位
スタンフォード大学	289億ドル	同率 6位
プリンストン大学	259億ドル	1位
マサチューセッツ工科大学	184億ドル	同率 2位
ペンシルバニア大学	149億ドル	8位
テキサスA&M大学(州立)	127億ドル	同率 68位
ノートルダム大学	123億ドル	19位
ミシガン大学(州立)	123億ドル	同率 23位
コロンビア大学	113億ドル	同率 2位

※2020会計年度終了時

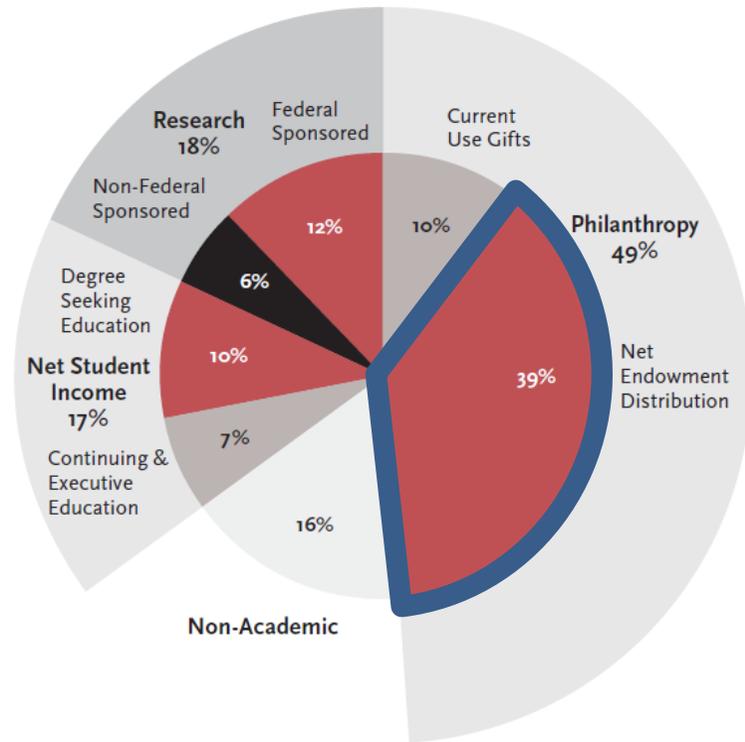
## ② 大学独自基金の使途



# (事例) ハーバード大学の収入源

- ・2021会計年度において、52億ドルの収入のうち、**約4割(39%)の20億ドルが大学基金**の運用益からの配分。
- ・収入源が多様化しており、学部・研究科別の状況が異なる中、**大学基金が学内の教育研究活動を下支え**している。

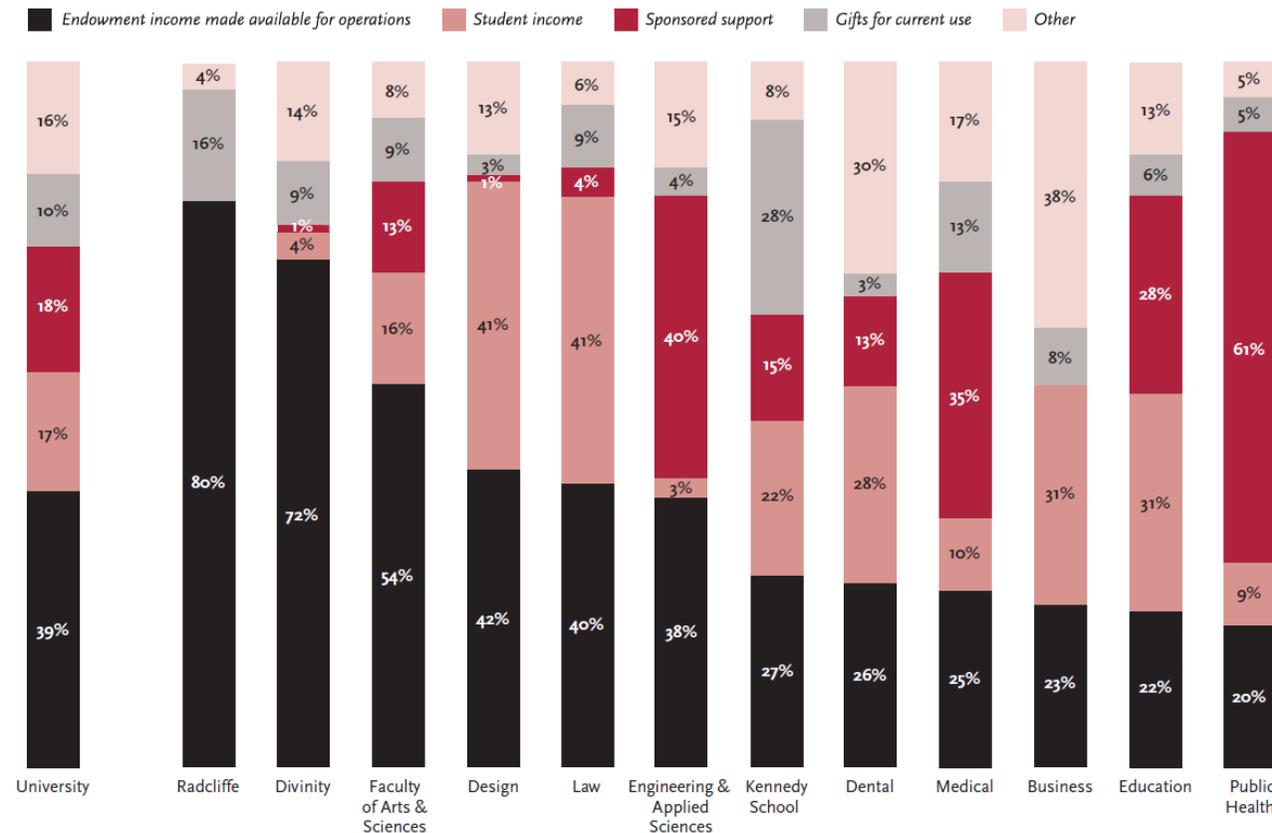
## ① 大学全体の収入源



- ✓ 大学全体の収入の約4割(39%)が大学基金の運用益からの配分
- ✓ 寄附が10%、学費収入が17%、連邦政府の研究費が12%、政府外の研究費が6%

## ② 学部・研究科別の収入源

FISCAL YEAR 2021 SOURCES OF OPERATING REVENUE



**黒 (大学基金)**、**橙 (学費収入)**、**赤 (委託研究等)**、**灰 (寄附)**、**その他**

# (参考) 大学を中核とした好循環に向けた取組 (海外の事例)

## 次世代技術の開発・実証 (自動運転)



### 米ミシガン大学 自動運転車実験施設「Mcity」

- ・ミシガン大学運輸研究所は、連邦運輸省や州交通局と一体となって、2012年から約3000台の車両が参加する協調型運転支援システムの実証実験を実施。2015年、中核実験施設として「**M City**」を建設。
- ・32エーカー(約13万m<sup>2</sup>)の敷地に、直線路、市外路、トンネル、踏切など、**多様な走行環境を再現**。建築物や街灯・道路標識などの交通施設も配置可能。交通管制システムや交通シミュレーションなどのIT基盤も整備。

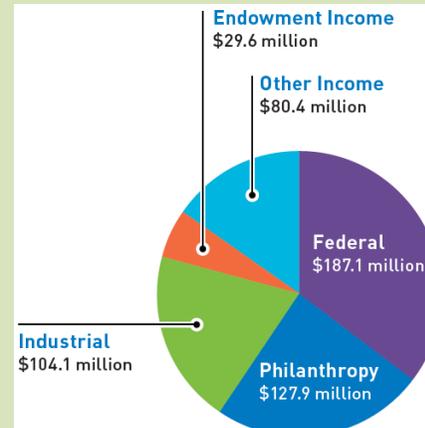
- ・ミシガン大学が擁する**社会科学、人文科学などの研究者が連携**して、多面的な研究を機器・システムの開発と同時に行う体制。産学官が連携し、フォードなどとともに、**トヨタ、ホンダ、デンソーも中核企業**として名を連ねる。
- ・2018年、トヨタは、ミシガン州に60エーカー(約24万m<sup>2</sup>)の自動運転用試験場を開設するなど、同州の投資を拡大。



## 異分野融合研究の推進 (次世代医療)



### 米ハーバード大学・MIT ブロード研究所



- ・ハーバード大学とMITの遺伝子医学の研究所が2004年に**統合改組して設立**。両大学が共同で運営。
- ・篤志家のブロード氏の**1億ドルの寄附により、創設**。2008年には、安定的に運営するために、**4億ドルの基金を造成**。
- ・毎年度の収入(約5億ドル)は、**政府・寄附・産業界・運用益等で構成**。
- ・バイデン米大統領の首席科学顧問であったランダー博士が初代所長。関連病院とも連携し、**ゲノム科学を通じて、異分野融合研究や次世代医療**に取り組む。

1. 多様な研究大学群の形成に向けて
2. 国際卓越研究大学の公募・選定について
- 3. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**
4. 大学研究力強化委員会の主な検討事項等について

# 第66回総合科学技術・イノベーション会議における岸田総理発言



令和5年2月8日

本日は、今後の科学技術・イノベーション政策の大きな方向性を議論いたしました。また、**多様な大学の機能強化を支援する地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**、(略)などに関する報告を頂きました。

本日の議論を踏まえ、検討の方向性を3点申し上げます。

1つ目は、先端科学技術に関する国家間競争への対応です。(略)

2つ目は、**知の基盤の強化と人材育成**です。世界と伍する**国際卓越研究大学**に加え、地域の知の基盤となる**地域中核・特色ある研究大学**を創出するべく、自らの強みや特色、ミッションに応じた戦略を描く研究大学への支援をこの春から開始いたします。

あわせて、**女性や若手研究者の更なる活躍**、**文理分断からの脱却**などを支援するとともに、日本でのG7開催も機会とし、価値観を共有する同志国との協力や**国際頭脳循環の形成**を進めます。

3つ目は、公的研究機関や資金配分機関の機能強化です。(略)

この3点を中心に、本年6月をめどとし、今後の政策の羅針盤となる『統合イノベーション戦略2023』を策定いたします。高市大臣のもと、政府一丸となって、戦略の具体化を進めてください。

# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定

- 日本全体の研究力を向上させるためには、大学ファンドによる限られたトップレベルの研究大学への支援と同時に、地域の中核となる大学や特定分野に強みを持つ大学など、**実力と意欲を持つ多様な大学の機能を強化**していくことが重要。
- こうした背景の下、実力と意欲を持つ大学が、**自身の強みや特色を最大限発揮し、成長の駆動力となってグローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指し、政府全体の支援策を「**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**」としてとりまとめ、**令和4年2月の総合科学技術・イノベーション会議にて決定**。
- **関係府省が連携し、当該パッケージに基づいた支援を着実に推進**するとともに、大学ファンドの検討状況等を踏まえ、日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、**大学ファンド支援対象大学と地域中核・特色ある研究大学とが相乗的・相補的な連携を行い、共に発展するスキームの構築**に資するパッケージ内容へと、**さらに発展・進化させていくため、令和5年2月8日の総合科学技術・イノベーション会議にて、改定**。

## 量的拡大

- ◆ 令和4年度第2次補正予算額  
**2,110億円 + 1,048億円の内数**  
この他、関連予算として**418億円**
  - ◆ 令和5年度予算額  
**442億円**  
この他、関連予算として**720億円**
- ( 令和4年度予算額  
**462億円**  
この他、関連予算として**557億円** )

※関連予算とは、大学が参画することも可能な事業の予算であり、その規模については、内数のものも総額を計上

## 質的拡充

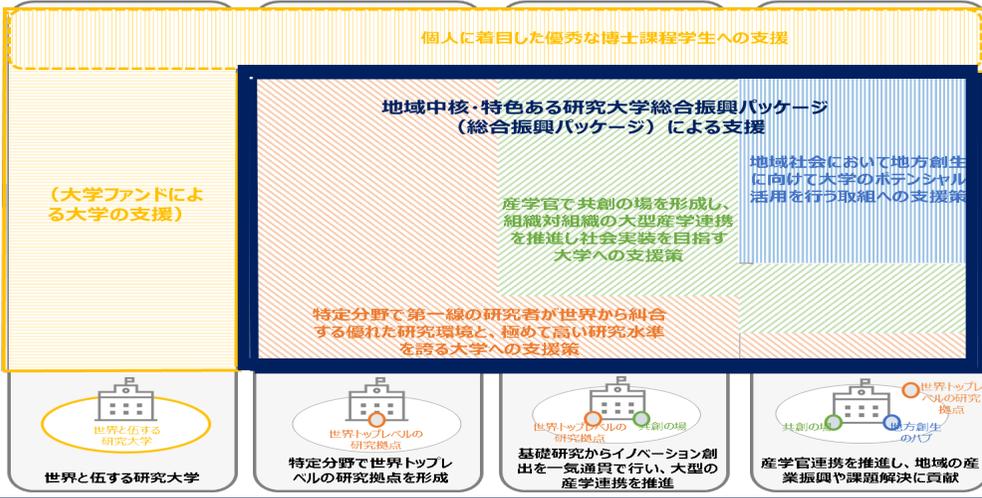
- ◆ 総合振興パッケージで**目指す大学像を明確化**するとともに、「今後に向けて」を踏まえて「**大学自身の取組の強化**」に向けた**具体策を充実**  
総合振興パッケージ（令和4年2月決定）  
～今後に向けて～（抄）  
・本パッケージについては、文部科学省\*で検討の緒に就いた、**大学の強みや特色を伸ばす取組強化の具体化・実質化等に向けた議論の動向**も踏まえつつ、今後、改定を行っていく予定（※ 科学技術・学術審議会大学研究力強化委員会）。
- ◆ 研究者が研究に専念できる時間確保に向けた**専門職人材の量・質の確保**や、研究DXや設備・機器等の**研究インフラ管理・利活用**など、**大学の研究マネジメントに着目した政策との連動**
- ◆ 総合振興パッケージに含まれる**各府省の事業間の連携強化**や、「**関連事業マップ**」の更なる**充実**（「**ヘルスケア・健康づくり**」領域を追加）

# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (改定)

令和5年2月 総合科学技術・イノベーション会議決定

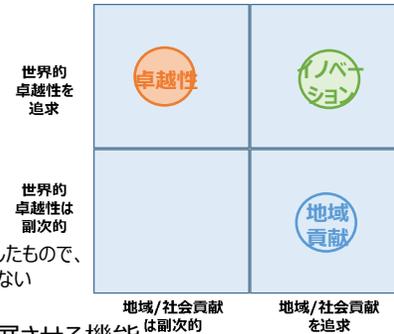
## □ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



## □ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解



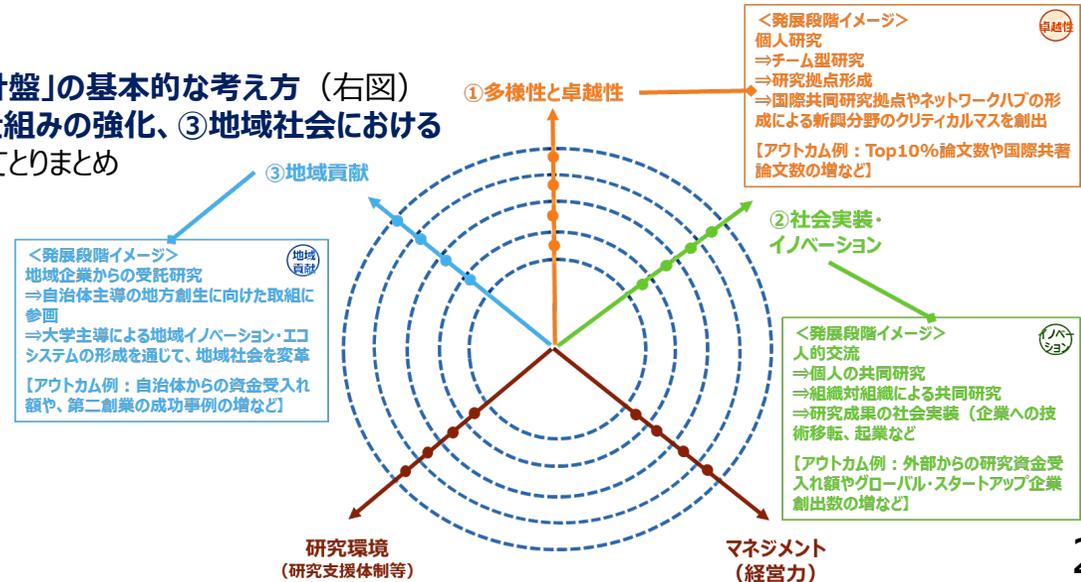
- 卓越性**
    - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
    - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
  - イノベーション**
    - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
    - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
  - 地域貢献**
    - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
    - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能
- ※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない

## □ 総合振興パッケージの狙い (目的)

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方 (右図) を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進 の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

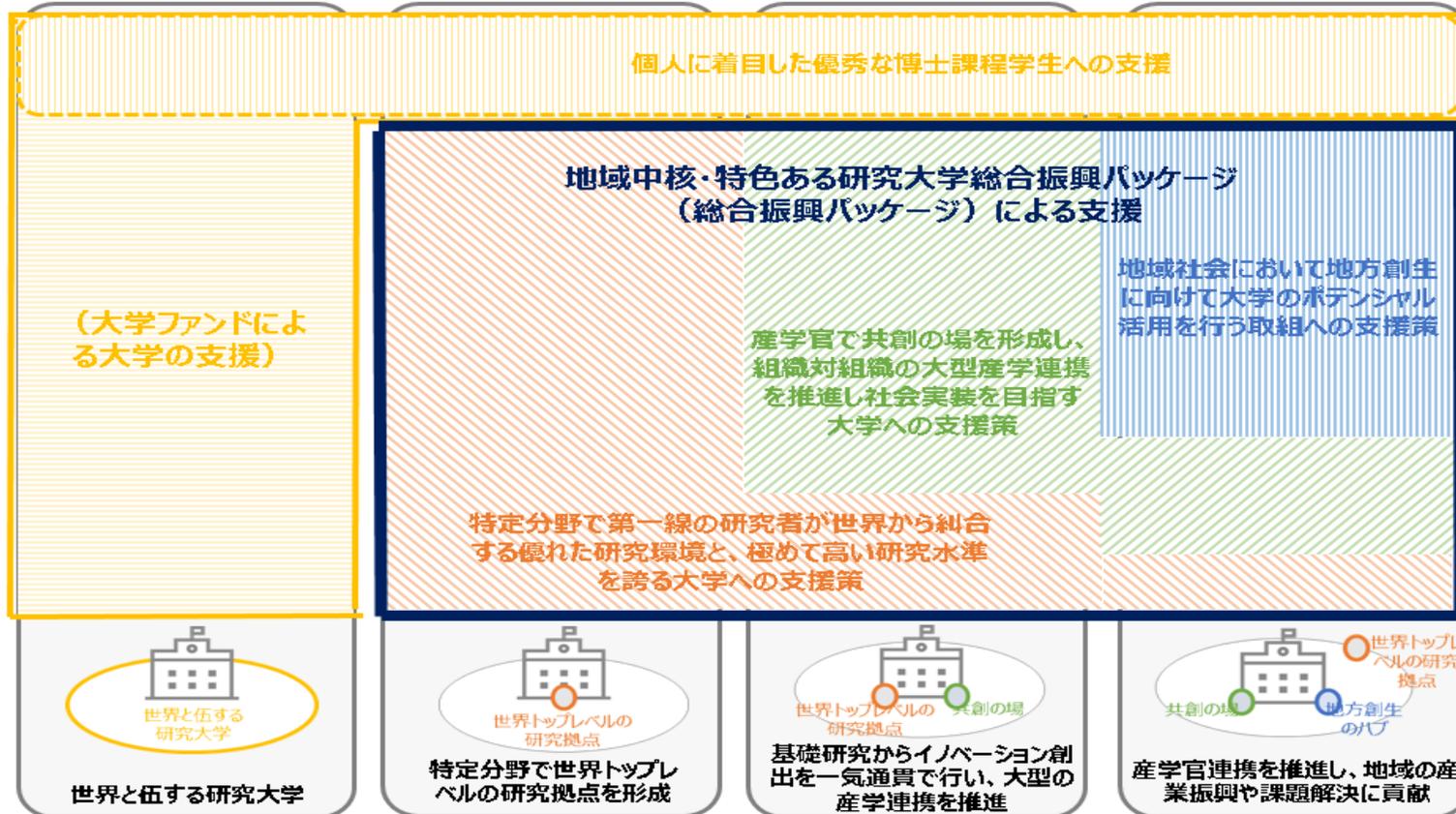
地域の中核大学等が**地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



# 総合振興パッケージで目指す大学像（総論）

## □ 総合振興パッケージの位置づけと目指す大学像

- 研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



（参考）研究大学とは？

高等教育機関のうち特に、（複数の分野において）多様な社会で活躍できる博士人材を輩出する機能を持ち大学院教育における研究活動を重視しており、研究基盤を維持し、多くの研究者や博士課程学生が在籍している大学

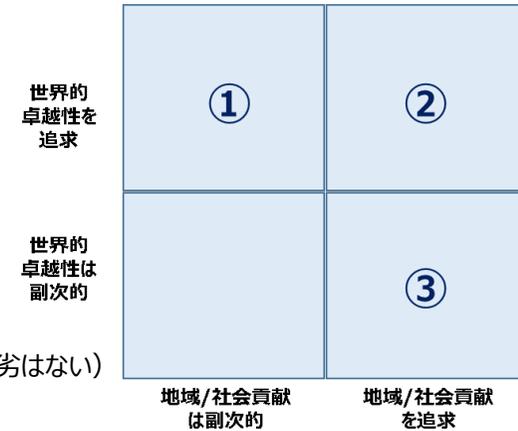
（参考）カーネギー大学分類：米国カーネギー教育振興財団が出資し設立した、民間の高等教育政策審議機関であるカーネギー高等教育審議会が、高等教育の現状分析と課題析出に資するために作成したものが始まりであり、学位授与数や専攻の多様性等により、Doctoral Universities, Master's Colleges and Universities, Baccalaureate Colleges, Associate's Colleges, Special Focus Institutions 等に大別

# 総合振興パッケージで目指す大学像（各論：研究活動と高度人材育成）

総合振興パッケージで目指す大学が**保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能**とを、  
 ストークスの4象限※を参考にして、『卓越性』と『地域/社会貢献』の観点から、  
 3つの要素に分解して、それぞれの機能強化により目指す方向性を整理  
 （分類は便宜的なものであり、それぞれの機能は、独立ではなく連動することで総合知として発揮されることに留意）

※Donald E. Stokes, *Pasteur's Quadrant – Basic Science and Technological Innovation*, Brookings Institution Press, 1997

（象限毎に機能を分類したものであり、それぞれの象限に優劣はない）

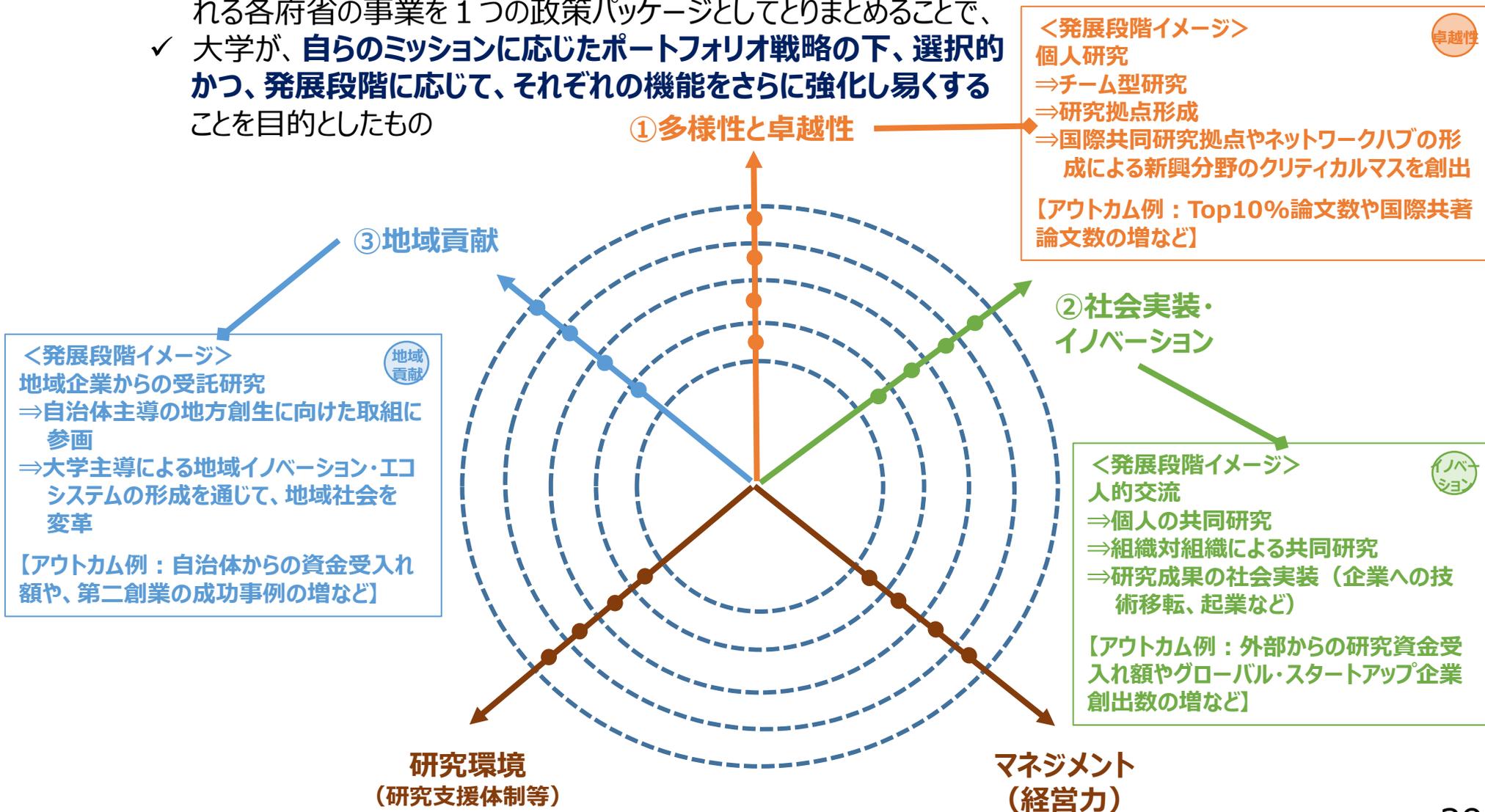


- ① **【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能**  
 ……継承・発展すべき学術領域の多様性を維持しつつ、強みを持つ特定領域の卓越性を極め、同領域における国際的なプレゼンス向上を目指す
- ① **【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能**  
 ……深い専門性を涵養し、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行し、ブレークスルーをもたらすことができる人材の輩出を目指す
- ② **【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能**  
 ……強みを持つ分野における産業界との大型共同研究や、グローバル・スタートアップ企業創出等により、大学の知の価値の最大化を目指す
- ② **【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能**  
 ……技術シーズを社会的インパクトのあるビジネスに繋ぐ人材や、自ら枠を超えて行動を起こし、革新的なアイデアや独自性で新たな価値を生み出していく人材など、イノベーション創出に不可欠な人材の育成を目指す
- ③ **【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能**  
 ……地域企業の事業再生や地域の新産業創出など、地方創生に向けて地域社会が抱える課題解決を目指す
- ③ **【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材を養成する機能**  
 ……地域の成長産業の担い手の輩出や、地域ニーズに対応したリカレント教育、社会人のリスキリングを通じた専門人材の育成を目指す

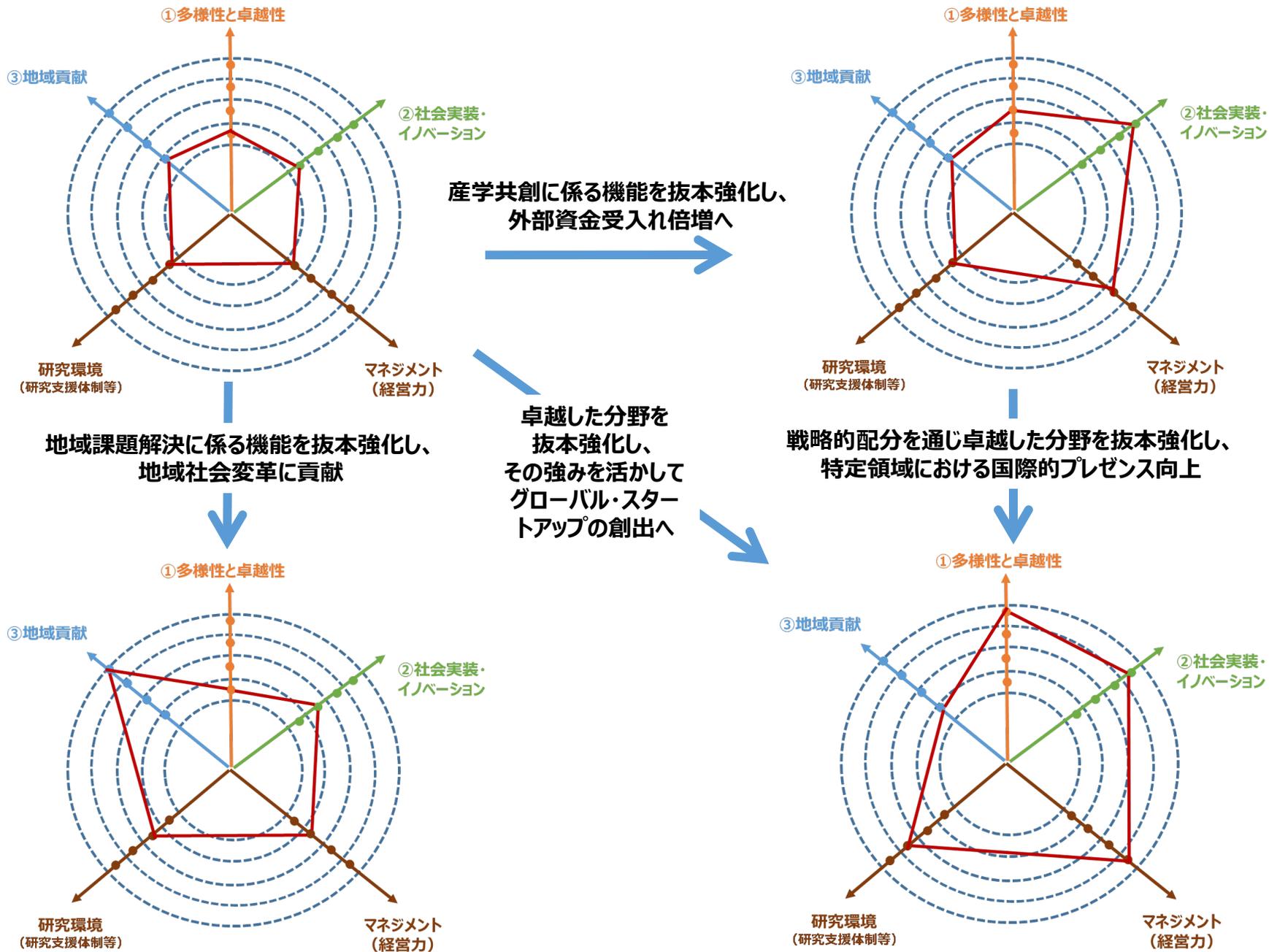
# 総合振興パッケージの目的

□ 総合振興パッケージは、

- ✓ 研究活動を核として大学の力を向上させる際に求められる『機能』の観点から、**目指す大学像に向けて大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方**を示しつつ、重層的に展開される各府省の事業を1つの政策パッケージとしてとりまとめることで、
- ✓ 大学が、**自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略の下、選択的かつ、発展段階に応じて、それぞれの機能をさらに強化し易く**することを目的としたもの



# 羅針盤を活用した戦略的な機能強化の例（イメージ）



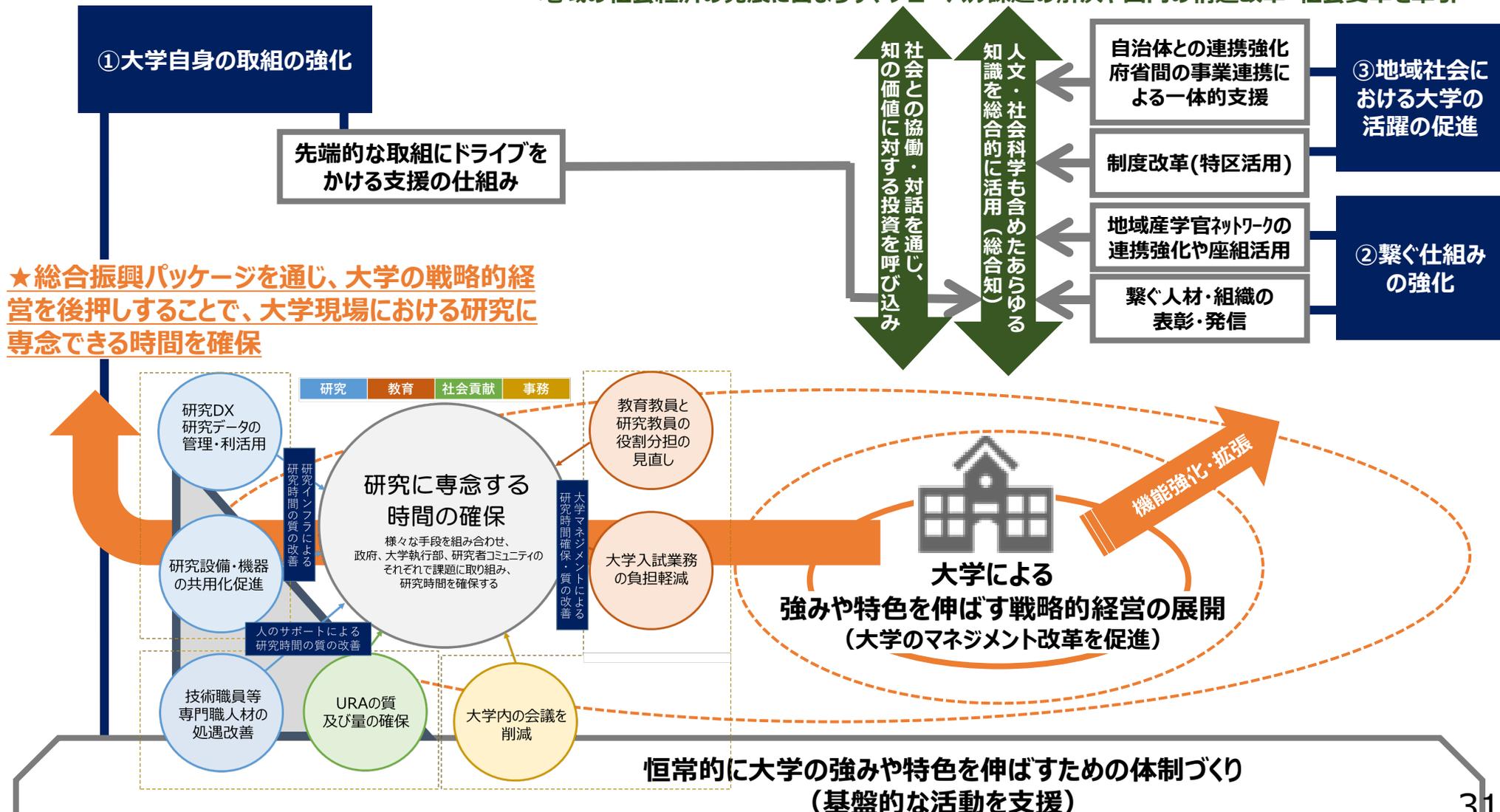
# ① 大学の研究マネジメントに着目した政策等との連動

～研究に専念する時間の確保～

- 大学が、自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化（**大学が変わる**）
- 大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革（**社会が変わる**）

## 地域・社会・ステークホルダー

～地域の社会経済の発展に留まらず、グローバル課題の解決や国内の構造改革・社会変革を牽引～



1. 多様な研究大学群の形成に向けて
2. 国際卓越研究大学の公募・選定について
3. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定
4. **大学研究力強化委員会の主な検討事項等について**

# 大学研究力強化委員会における主な検討事項等について

1

2019年4月に永岡副大臣TFで策定した「研究力向上改革2019」を発展させ、研究人材・資金・環境の一体改革により、我が国の研究力を総合的・抜本的に強化するため、CSTIにおいて「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定。

2

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」も踏まえ、大学の研究力強化を図るため、国公私立大学の研究人材・資金・環境等に係る施策を戦略的かつ総合的に推進。日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、大学ファンドを通じた国際卓越研究大学への支援と、地域中核・特色ある研究大学への支援強化による両輪により、研究力の向上を促進。

3

これらの取組のほか、大学ファンドからの支援に先駆けて始まった博士支援の拡充等もあり、研究人材・資金の取組が加速したものの、日本学術会議からも指摘※されているように、大学における研究環境に係る様々な課題にまだ十分に取組めていない。  
※「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」（2022/8/5 日本学術会議）

4

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定に際して示された羅針盤を踏まえ、各大学がそれぞれのビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるよう、必要な仕組みなどを検討する必要があるのではないか。

5

併せて、振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築するなど、“我が国の研究大学群のあるべき姿”に向けて、必要な取組について議論してはどうか。

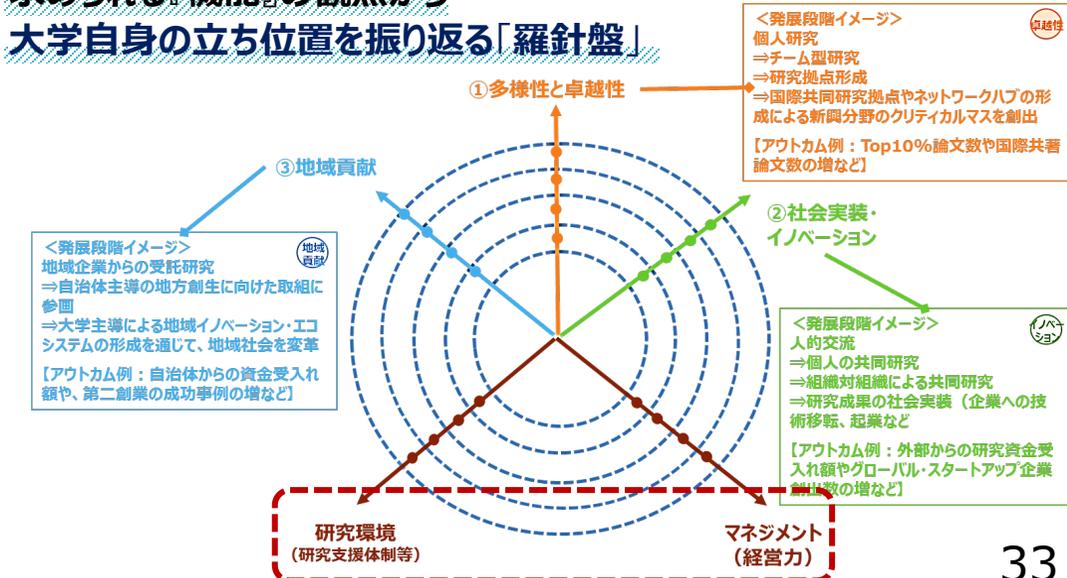
## 国際卓越研究大学の将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準的教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



## 求められる『機能』の観点から 大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」



諸外国に比べ研究力が相対的に低迷する現状を一刻も早く打破するため、  
**研究「人材」、「資金」、「環境」の改革を、「大学改革」と一体的に展開**

日本の研究者を  
取り巻く主な課題

- ・博士課程への進学者数の減少
- ・社会のニーズに応える質の高い博士人材の育成
- ・研究者ポストの低調な流動性と不安定性
- ・研究マネジメント等を担う人材の育成

- ・若手が自立的研究を実施するための安定的資金の確保が課題
- ・新たな研究分野への挑戦が不足
- ・資金の書類様式・手続きが煩雑

- ・研究に充てる時間割合が減少
- ・研究組織内外の設備・機器等の共用や中長期的・計画的な整備更新の遅れ
- ・研究基盤の運営を支える技術専門人材の育成

研究力向上に資する基盤的な力の更なる強化

研究人材の改革

若手研究者の「安定」と「自立」の確保、「多様なキャリアパス」による「流動性」「国際性」の促進などを通じ好循環を実現し、研究者をより魅力ある職に

研究資金の改革

すそ野の広い富士山型の研究資金体制を構築し、「多様性」を確保しつつ、「挑戦的」かつ「卓越」した世界水準の研究を支援

研究環境の改革

研究室単位を超えて研究環境の向上を図る「ラボ改革」を通じ研究効率を最大化し、より自由に研究に打ち込める環境を実現

大学改革

研究力向上につながる  
ガバナンスの強化・  
マネジメント改革の推進

政府全体の目標・取組とも連携

- Society5.0
- SDG s
- 統合イノベーション戦略
- AI戦略
- バイオ戦略
- 量子戦略 等

我が国の研究力の国際的地位をV字回復

中長期的に反映・連携

- 第6期科学技術基本計画
- 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン 等

国際頭脳循環の中心となる世界トップレベルの研究力を実現し、絶えず新たなイノベーションを生み続ける社会へ

継続した連携

- 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
- 日本学術会議
- 大学改革支援産学官フォーラム（仮称）
- 経団連、国公私立大学の関係団体 等

産学官を巻き込んだ不断の見直し  
⇒ 進化し続けるプラン



## (参考) Jリーグ百年構想

- あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること。
- サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること。
- 「観る」「する」「参加する」。  
スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること。



誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境が整ってはじめて、豊かなスポーツ文化は育まれます。そのためには、生活圏内にスポーツを楽しむ場が必要となります。

そこには、緑の芝生におおわれた広場やアリーナやクラブハウスがあります。

誰もが、年齢、体力、技能、目的に応じて、優れたコーチのもとで、好きなスポーツを楽しみます。「する」「見る」「支える」、スポーツの楽しみ方も人それぞれです。

世代を超えたふれあいの輪も広がります。

自分が住む町に「地域に根ざしたスポーツクラブ」があれば、こんなスポーツライフを誰もが楽しむことができます。

このような Jリーグの理念を分かりやすく訴求するために、Jリーグは「Jリーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ。」というスローガンを掲げ、「地域に根ざしたスポーツクラブ」を核としたスポーツ文化の振興活動に取り組んでいます。